

『星陰りて、謀り響く』
PC4 用ハンドアウト

陰謀論者のマードーミステリー

コードネーム: キャロル

ネタバレ防止用ページ

独白。

私は知っている。この世界は、素晴らしい陰謀を中心に回っていることを――陰謀論の牙城『夏音』に妨害されなければ、偉大なる神を招くのは私であることを。

私は犯人ではない。私は夏音のリーダー『フーガ』を殺そうとは考えていたが、私がわざわざ手を汚す必要はない。私はハスター様を招来しなければならないのだ。

1* 1* HAJTOR HAJTOR CAYAX wuwtmm wuwtluqbm wuwtmm al al HAJTOR

キャラクター設定

本名	自由
コードネーム	キャロル Carol
年齢	大学院生（26 歳～） 6 年前にロンドの研究室に入った矛盾しない年齢（6 年前に大学 3 年生以降ないし、社会人経験のある大学院生）。
性別	自由
一人称	自由
容姿	自由
誕生日	自由（おうし座）
血液型	自由
出身地	x 国 本国 「カラクサウラ」市
職業	大学院生
性格	信心深い。
その他の設定	黄色の印の親子団、最後の生き残り。

1* 1* HASTOR HASTOR OYAYAX WOLGTM WOLGTAGLM WOLGTM AL AL HASTOR

我らが偉大なるハスター様

by 黄色の印の親子団が作成した教本

ハスター様の偉大なることは疑うべくもありません。しかしハスター様を讃える者として、ハスター様が如何にして素晴らしい神であるかを知っておく必要があります。

ハスター様と『クトゥルフ神話』

ハスター様は『クトゥルフ神話』の神として知られています。『クトゥルフ神話』はミウス半島に古くから伝わる神話体系で、港町で信仰されている「クトゥルフ」から名付けられています。しかし「クトゥルフ」というなれば大変おぞましい悪臭を放つ巨大タコであり、神話の名を飾るには相応しくないデロデロの生ごみの塊^{かたまり}です。そのため、黄色の印の親子団では御名^{みな}をお借りして「ハスター神話」と呼んでいます。

ハスター神話を深く知る人間は、我々のほかに某タコを信仰する憎^{にく}きハイドラ教団しかいません。耳にしたことがある人間も、創作のネタとしか考えていないでしょう。

ハスター様を信仰する理由

ハスター様を信仰する最大の理由は「それがハスター様だから」に違いありません。しかし、筆舌^{ひつぜつ}に尽くしがたい栄えあるハスター様を描写する愚^{おろ}を犯^{おか}すとこのようになります。

ハスター様は優しく、強力な神です。最古の記録では、ハスター様は羊飼いを見守る心優しき神とされています。事実、ハスター様は我々信者に様々な恩恵を授けてくださいました。

しかし、ハスター様は同時に、不届きものを成敗^{せいばい}するためのお力をお持ちです。例えば、ハスター様のお使い「ビヤーキー」様は、光の500倍の速さで宇宙を駆け巡ります。葬儀^{そうぎ}に蜂蜜酒^{はちみつしゅ}をささげ、49日間喪に服すのも、信者の魂^{たましい}をハスター様のおわしますアルデバランまで、ビヤーキー様がお運びになるからです。

ハスター様の素晴らしさは、セラエノの大図書館を以てしても言葉足らずですが、その欠片^{かけら}にすら畏敬^{いけい}の念^{いだ}を抱くばかりでございます。

黄色の印の親子団の使命

我々、黄色の印の親子団の使命は何があるのでしょうか？ ラマ様の教えに従い、日々ハスター様を讃えること以外に、3つ、大切な使命がございます。

1* 1* HAJTOR HAJTOR OYAYAX walgatnn walgatlagln walgatnn al al HAJTOR

まず、ハスター様の素晴らしさを広めましょう。皆様をお守りし、常に携えるべき「黄色の印」は布教の際にもその偉大なることを示します。この反転された松明を見せれば、いかなる異教徒といえどもたちまちハスター様の^{おそ}畏れ多さに^{ひれふ}平伏すことでしょう。

つぎに、年1回の「アルデバラン祭」を^{つつが}恙なく執り行いましょう。この大祭は毎年11月30日、1年の中でアルデバランに最接近する真夜中の0時を^{しゅく}祝して行うものです。この祭りを^{ないがし}蔑ろにすることは、ハスター様への^{はんぎやく}叛逆とすら言えます。V字に並べた9つのモノリスを建て、^{はちみつしゅ}蜂蜜酒をもって盛大に執り行うことが我々信者の^{つと}務めであり、喜びなのです。この大祭は次にお話しする使命の訓練であると伝わっています。

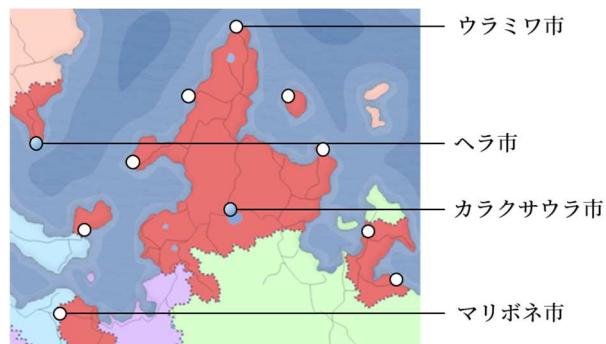
最後は最も重要な使命です。ハスター様の招来と解放。大変に^{なげ}嘆かわしいことなのですが、ハスター様はアルデバランのカルコサにあるハリ湖という湖に閉じ込められています。我々には、ハスター様をお呼びし、この地でご自由にさせていただくための儀式をする義務があるのです。

まだ準備は整っていません。しかし、いつの日か、ハスター様を地上にお招きすることが、我々^{わいしやう}矮小なる人類の存在意義なのです。

生い立ち

「黄色の印の親子団」を率いる「ラマ」の夫婦が、ハスター様より一人の赤ん坊を授かりました。キャロルです。

黄色の印の親子団は、カラクサウラ市にある宗教団体です。信者である彼らにハスター様は^{おんけい}恩恵を惜しまず、キャロルは教団の子として何^{なにふじゆう}不自由ない子供時代を送りました。



11月30日。おうし座の一等星アルデバランが0時に天高く^{かがや}輝くその晩に、教団はハスター様を^{たた}讃える盛大な「アルデバラン祭」を開きます。12年前も同じでした。

1* 1* HASTOR HASTOR CRAYAX vulgarm vulgarm vulgarm al al HASTOR

天罰～夏音創立

その晩、キャロルは用事があり、アルデバラン祭に参加できていなかった。

両親にどれほど怒られるだろうか。ふるえながら帰ったキャロルを迎えたのはしかし、無数の刺し傷が残る両親の遺骸^{いがい}だった。二人は、金庫を守るように倒れている。この金庫には、「教団の命と思え」と言い聞かされてきた 1枚の石板^{おさ}が納められていた。石板には、『ハスター様の招来』と『ハスター様の解放』の呪文が記されている、と教団では伝えられてきた。しかし、古代アコール語が刻まれた碑文を解読できないまま、お招きできないまま死蔵していたのだ。

碑文^{ひぶん}を解読するまで、教団は石板を守り抜かなければならない。しかし、頑丈な扉は強引に破壊され、石板は無情にも持ち去られていた。

残りの教団員も殺されている。生き残りはキャロル一人だった。

この祭りを^{ないがし}蔑ろにすることは、ハスター様への^{はんぎゃく}叛逆とすら言えます。

すべては手遅れになってから、教本の一文が頭にこだました。これが天罰なのか。ハスター様のご慈悲^{じひ}を賜^{たま}うには、石板を取返し、ハスター様を招来するしかないだろう。キャロルには、犯人を追う手掛かりが2つあった。

1つは、死体と報道の不自然さだった。

通常、皮膚を切りつけると、傷口はパツクリと開く（^{しかい}哆開）。しかし、キャロルが見た死体の切り傷は閉じていた。これは「切り傷は死後につけられた」、つまり「死因が偽装されていた」ことを意味する。しかし、法医学の初歩知識でわかる矛盾を、報道では「刃物で争った形跡があり、同様のカルト集団との抗争」と報じていた。

さらに詳しく調べてみると、8つの経済推進都市の超高層ビルとウラミワ市のファロス灯台が V字の形をなすことに気が付いた。この一つ一つがハスター様招来のためのモノリスなのだろう。政府は石板を盗み、ハスター様を地球にお呼びするつもりなのだ。

そして今から6年前。もう一つの手がかりを追って、はるばる北西飛び地の国立コウトスミ大学のある民俗学教授（ロンド）の門をたたいた。

1* 1* HAJTOR HAJTOR OPA4AX vobgtnm vobgtnagbm vobgtnm n/ n/ HAJTOR

キャロルにはロンドがこの事件に関わっている確証があった。なるほどロンドは「クトゥルフ神話」研究の第一人者である。しかしそれ以上に、石板の存在はこの民俗学教授しか知らないのである。

両親が生きていたころ、一度だけ、ロンドが教団を訪れたことがあった。「決して口外しない」との誓いを信じた両親は、何かわかるかもしれないという期待を込め、教団の者すらほとんど見たことのない石板を開示していた。

案の定、研究室には石板の痕跡があった。すでに解読完了したのか、本体は政府に返還されていたが、石板に関する断片的な研究メモが、そこかしこから見つかった。

やはり政府が教団を襲い、密告者のロンドに石板解読を依頼したのだろう。誓いを立て、破ったその汚らわしい口で、ロンドはキャロルを歓迎したことになる。しかし、激情に任せてロンドを殺す場面でもないと言っキャロルは判断した。

キャロルは政府のハスター招来計画を乗っ取るつもりであった。協力ではない。乗っ取りだ。信奉者の、キャロルの両親の血にまみれたその手で、^{しょうじょう}清浄なるハスター様を利用せんする無礼は^{かんか}看過しがたい。しかし、国土を覆う9つのモノリスと、ロンドがここ数年で発表した古代アコール語の研究は、^{きやつ}彼奴らの利用価値を示していた。

とはいえ、とキャロルは^{ほぞ}臍をかんだ。ここにはもう、石板はないのだ。依頼主と思われる政治家へ連絡してみたが、しらばっくれた返事が返ってくるだけだった。

ところが翌年、197年4月のことである。ハスター様のご加護だろうか、政府高官が石板をしょって逃げてきた。元首補佐官のフーガが計画を妨害するために石板を盗むと、ロンドを頼って国立コウトスミ大学まで来たのである。

こうして、フーガ、ロンドを中核に、カプリッチオ（フーガの逃亡を助けた部下）、キャロル、アリア（ロンド研所属の大学4年生）を加え、夏音が創立された。

ロンド、キャロルとアリアの3人は、ハスター様を中心とする神話体系を研究した。いわゆる『クトゥルフ神話』である。キャロルは石板を見ようと、その研究的な意義を説いたが、警戒心の強いフーガは決して許さなかった。

したがって、キャロル達の研究というのは、古代アコール語の発音や、黄色の印の親子団の痕跡をもとにしたフィールドワークなどであった。

1* 1* HAJTOR HAJTOR OYAYAX wuigtmm wuigtuaglm wuigtmm 11 11 HAJTOR

夏音創立後

半年後の12月、一本の電話がキャロルにかかってきた。以前、接触を図った政治家からである。

「端的に言おう、石板が盗まれた。

アレは我々が何とかして取り返す。君にはその解説をお願いしたい」

「石板はすでに解説されたはずでは？」

「解説結果は間違っていた。不完全だったのか、嘘っぱちだったのか。いずれにせよ、呪文は発動しなかった。」

ロンドの解析レポートには「儀式には石板が必要」と記されている。しかし、それだけでは足りないのだと政治家は語った。石板が盗まれる以前から繰り返してきた検証実験は一度も成功していなかったのである。夏音に所属していることを隠しつつ、キャロルは「協力」を申し出た。

不穏な動きもあった。港町出身のフーガは、どうもハスター様とクトゥルフの対立を知っていたらしい。ハスター様が地に降り立った記念すべき瞬間に、あの生臭いゲル蛸をぶつけようとフーガは画策していた。汚らしい。キャロルはアリアとともにフーガに直談判をしたが、脳内ルルイエまみれのフーガが折れることはなかった。

199年7月、χ国全体を経済不安が襲った。莫大な遺産があったキャロル自身に大した影響はなかったが、翌年4月に修士課程を終えたアリアは脱退した。その後もキャロルは一人で説得を続けたが、フーガが買ってきた汚らしいクトゥルフの彫像を見てあきらめた。むしろフーガに取り入ろうと、「脱退したメンバーとの接触禁止」「メディアを見ると洗脳される」などにも従ったが徒労だった。

202年11月27日。今年もカラクサウラ市へ帰って、一人でアルデバラン祭を開こうと考えていたおり、フーガから連絡があった。

「ロンドが襲撃された。11月30日、報復としてウラミワ市のファロス灯台を破壊する」

最近、姿を見せなくなっていたフーガも、久しぶりに仮面を見せるらしい。奴から石板『ハスター様の招来・解放』を奪い戻すよい機会となるだろう。

黄色の印の親子団では、死後12年で死者の魂がハスター様とひとつになる、と言われていた。作戦の日は、両親が死んでちょうど12年の節目にあたる。

ハスター様を強く信奉していた両親は、今の自分をどう思っているのだろうか？

答えを求めて見上げた星空には、アルデバランが燃えているだけである。

1* 1* HAJTOR HAJTOR OYAYAX wuigtmm wuigtuaglm wuigtmm 1* 1* HAJTOR

事件当日の記録

- 出発前 「ロンドは殺害した。夏音内のスパイにフーガ暗殺の命令を出す」
との連絡。フーガが死んでいる隙に、石板を取り返すでしょう。
- 11/29 17:00 隠れ家に着くとフーガ・シンフォニー・カプリッチオがすでにいた。
- 21:00～ 顔合わせと作戦会議。セレナーデの腕時計にイヤな気配を感じる。
- 22:15 シンフォニーが外出した。ほかの人はリビング・ダイニングに残った。キャロルはフーガやカプリッチオと話をしていた。
- 22:30 天体望遠鏡を持って外出した。取り寄せた蜂蜜酒^{はちみつしゅ}も持って行った。
- 11/30 00:04 0 時を 4,5 分過ぎて、アルデバランが真南の空に輝いた。蜂蜜酒をささげ、ハスター様を讃える歌を歌った。
- 01:30 隠れ家に帰ると、1 階にシンフォニーとカプリッチオがいた。
フーガもそろそろ死んでいるはずだ。3 階へ行く前に、自分の部屋から見えるアルデバランをおがいだ。
- 01:45 部屋を出て 3 階へ行こうとすると、カプリッチオが自身の部屋から出てきた。カプリッチオの部屋の前で、星を見ながらいろいろと話をした。思えば、創立メンバーも残り少なくなってしまった。
- 01:55 フーガが 1 階の階段のほうから来た。毒でも盛られたのか、壁に手をつきながらゆっくりと歩いている。カプリッチオが体調を心配したが、フーガは首を振り、隠し扉に姿を消した。
- 02:00 タバコを吸いながら、シンフォニーが自身の部屋から出てきた。カプリッチオと言葉を交わすと、1 階へ降りて行った。
- 02:30 カプリッチオとの会話を終え、部屋に戻った。歌を歌った気がする。
- 04:00 フーガの書斎に行くとフーガの死体があった。石板や金庫の鍵は見つからず、代わりにフーガのスマートフォンが見つかった。役に立つかもしれないと持ち帰って寝た。
- 06:30 朝起きて、リビング・ダイニングに集まった。
- 06:45 カプリッチオがフーガを呼びに行き、死体を発見した。ゲーム開始。

1* 1* HAJTOR HAJTOR OYAYAX wuigtmm wuigtuaglm wuigtmm al al HAJTOR

キャラクターのカード

以下の説明は、実際のカードの説明と異なる場合があります。

昨夜の記録 ？ ？ ？

何を書いてあるか、予想できない。

持ち物 A フーガのスマートフォン

あまりこまめに拭いていた様子はない。英数字 5-10 桁のパスワードがかかっている。中身を見るにはパスコードを GM に伝えよ。

そういえばフーガの誕生日はいつだっただろうか？

持ち物 B 黄色の印

ハスター様の信者の証。「反転した松明」のようなデザインである。

効果: 所有者はこのカードを全体公開することができない。

このカードに 2 コ以上の調査ポイントを使ったプレイヤー、1 度でも所持したプレイヤーは、調査完了時点で追加ハンドアウトを手にする。(キャロルを除く)

追加ハンドアウトを受け取ったプレイヤーは、本来の目的がねじ曲がり、ハスター様招来・解放に意欲的になるだろう。また、ハスターが招来・解放されても、黄色の印に魅了された人間はハスターから攻撃されないと確信できる。

切り札 検視結果

黄色の印の親子団が減んだニュースを知っている人に、キャロルが生き残りだと気付かれる可能性がある。それ以外のデメリットはない。

キャロルは 12 年前、両親が殺されたときに少し法医学を学んだ。その知識から

- ・刃物の傷は、死後に付けられたものである。
- ・死亡推定時刻は 00:00~01:30 である。

の 2 点がわかった。カードを見せれば、ほかの人も納得するだろう。

……それなら、01:55 に見たのは一体誰だったんだ？

1* 1* HAJTOR HAJTOR CAYAX wu6atmm wu6atlagu6u wu6atmm 1d 1d HAJTOR

プレイヤーの目標

プレイヤーの行動を制限するものではなく、ロールプレイの指針となるものです。
追加ハンドアウトにより、変更される場合があります。

フーガ殺害の犯人をさがす **0** 点

生存する **4** 点

信者を増やす。 各 **1** 点

ハスター様を**招来**し、**解放**する。
(石板『ハスターの解放・解放』を得る必要がある) **8** 点

キャロルは、「石板〈ハスターの招来・解放〉」を閲覧するだけで「呪文〈ハスターの招来・解放〉」を入手することができます。(ほかのプレイヤーには呪文の入手に条件があります)

プレイヤーへのアドバイス

- ・フーガの部屋には金庫があり、石板『ハスターの招来・解放』が入っています。しかし、プレイヤーの誰かがその鍵を持っています。その誰かが、石板を手に入れる前にカギを奪いましょう。
- ・石板を先に奪われた場合でも、絶望することはありません。
- ・交渉や「黄色の印」で、協力者を増やしましょう。

1* 1* HAJTOR HAJTOR CRAYAX vulgarm vulgarm vulgarm al al HAJTOR

キャロル視点の登場人物

陰謀の全貌を知っていたのはフーガ、アリア、ロンド、私だけ。みんないなくなった。

PC1: シンフォニー

文面でのやり取りはあったが、直接会うのは初めてだ。ていねいな物腰の人間だ。

PC2: セレナーデ

初めて会う。何か嫌な雰囲気がする。

PC3: ララバイ

アリアがいた頃から、研究の調査に協力してもらっていた。一見ただの小心者だが、異様な鋭さを感じる時がある。

PC4: キャロル

自分自身。今こそ、ハスター様をお呼びするのだ。

PC5: カプリッチオ

フーガの元部下。夏音の運営がらみで雑用をさせられている。γ国の出身だそうだ。

NPC: フーガ

元政府高官。経済に詳しかったらしい。『ハスター様の招来・解放』が書かれた石板を所持していたが、ルルイエに脳をむしばまれていたのか、キャロルに見せることはしなかった。この隠れ家にいる間は、書斎の金庫に石板を入れていたはずだ。

NPC: ロンド

国立コウトスミ大学文学部の教授。χ国の考古学・民俗学・言語学の権威で、古代アコール語の解読でも知られる。昔、黄色の印の親子団を訪れて、石板を調べたことがある。教団が滅びた元凶。

NPC: アリア / アリアケ・アオイ

ロンドの研究室での後輩。夏音創立メンバーだったが、199年3月に脱退した。修士論文は「χ国の宇宙人信仰と失伝した呪術性に対する民俗考古学的アプローチ」。

知識・記憶

X 国

A map of the Kuroshio Current area, showing the locations of Urumiwa, Hara, Karakusaura, and Maribone cities. The map includes a compass rose in the top left corner. The cities are marked with white dots and labeled in Japanese: ウラミワ市 (Urumiwa City), ヘラ市 (Hara City), カラクサウラ市 (Karakusaura City), and マリボネ市 (Maribone City). The map also shows the surrounding landmasses and the Kuroshio Current itself, which is depicted as a red area.

夏音本部や国立コウトスミ大学があります。海はクトゥルフやノーデンスといったハスターに敵対する神々の領域と考えられており、キャロルは陸路で行き来していました。

1* 1* HASTOR HASTOR CRAYAX WOLGTM WOLGTAGLM WOLGTM A/ A/ HASTOR

カラクサウラ市

キャロルの出身地で、黄色の印の親子団の本拠地/聖地です。ハスターが封印されているカルコサに由来します。近くにハルモニア湖があります。

マリボネ市

南西飛び地の経済推進都市です。はちみつの生産地で、キャロルはマリボネ市から蜂蜜酒はちみつしゅを取り寄せています。

夏音

フーガが設立した秘密結社です。政府によるハスター招来計画を妨害するための組織ですが、ほとんどのメンバーは断片的な陰謀論しか知りません。

5年前、石板を盗み出してきたフーガがロンド研究室に逃げ込んできたことが夏音の始まりです。フーガ、カプリッチオ、ロンドに加え、当時研究室にいたキャロルとアリアが創立メンバーです。

創立の3か月後、どうやって知ったのかララバイが参加しました。シンフォニーとセレナーデの参加時期は詳しく知りません。

200年3月には、アリアが脱退しています。

ハスターとクトゥルフ神話

ここでは一般的な「クトゥルフ神話」で語られる「ハスター」について解説します。

ハスターはクトゥルフ神話の神です。風の神とされており、海の神であるクトゥルフと対立しています。

ハスターは現在、アルデバランのカルコサという町にあるハリ湖に封印されています。この封印を解くことは人間にはできませんが、一時的にハスターを地球に呼び寄せる（招来）することができます。ハスターの招来は

「V字状に並べられたモノリスの中で」

「アルデバランの昇る冬場に」

「必要な呪文を唱える」

ことでできます。

「ハスターの招来の呪文」で招来されたハスターは日が昇るとともにハリ湖へ戻りますが、「ハスターの解放の呪文」を唱えることで、ハスターは一年中モノリスの中で活動できるようになります。

1* 1* HASTOR HASTOR OYAYAX WOLGTM WOLGTAGLM WOLGTM AL AL HASTOR

ハスターの眷属にビヤーキーと呼ばれる、巨大な蜂のような生物がいます。光の速度の400倍（本作品では500倍）で宇宙空間を移動し、ハスターの眷属であるとされています。蜂蜜酒を好むため、儀式に蜂蜜酒をささげることが多いです。

当作品では「黄色の印の親子団」が登場しますが、「黄色の印の兄弟団」をもとにしたオリジナルです。以下の黄色の印の親子団で語られるのは基本的にオリジナルですが、「黄色の印」を所有している点は共通しています。

黄色の印の親子団

ハスターを信仰する教団です。「黄色の印」というハスターの力のこもったお守りを肌身離さず持っていることから、この名前が付けました。

教団は「ラマ」と呼ばれる家系が率いており、ここ100年はキャロルの先祖がラマを担っていました。カラクサウラ市に本拠地があります。

ハスターを招来・解放が最終目的でした。教団はその呪文が書かれた石板も所有していましたが、碑文は古代アコール語で書かれており、解読できていませんでした。

伝わっていたのはアルデバラン祭の「アルデバランが上る晩に」「V字状に並べた9つのモノリスの中で」儀式を行うこと、そして子守唄に変化した「呪文のメロディー」です。

190年11月29日、アルデバラン祭の最中、何者かに襲撃されました。幸か不幸か、その場にいなかったキャロルが唯一の生き残りとなりました。その後もキャロルは、毎年11月末になるとカラクサウラ市へ帰り、一人でアルデバラン祭を開いていました。

黄色の印の親子団は、「黄色の印」と呼ばれるお守りを所持しています。これを見た人間はハスターを信仰し、招来・解放の儀式に積極的になります。黄色の印というと、3つの「？」が放射状に並べられた絵柄が有名ですが、今回、「反転した松明」を新たにデザインしました。

以下はゲームプレイ上、まったく重要ではない、作者の妄想ですが、ロールプレイの参考にしてください。

教団員は9歳時に「誓約」を行い、葬儀は「^{ほうそう}蜂葬」を行います。

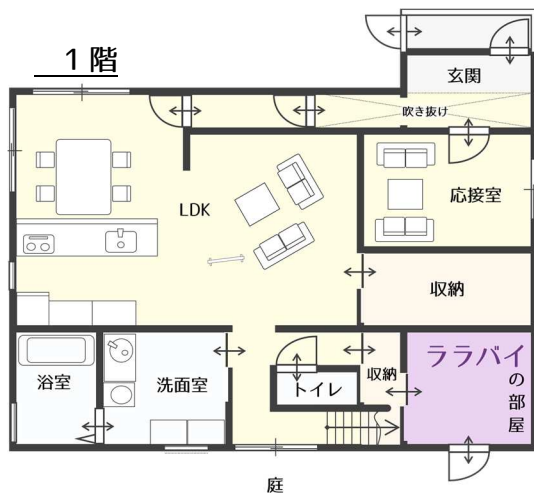
誓約は成人の通過儀礼です。誓約を交わすには、裸でハルモニア湖に潜り、ハスター様への恒久の忠誠を誓う呪文を唱えます。誓約を交わした人間には金運上昇、恋愛成就、無病息災といったご加護があります。中でも最大のご加護とされているのは、ビヤーキーに姿を変える「^{じじゅうほうしん}自受用蜂身」です。自受用蜂身は毎年約50分の1の確率で発生し、誰かに訪れると教団を挙げてお祝いをします。

1* 1* HAJTOR HAJTOR CAYAX WOLGTMN WOLGTAGLN WOLGTMN AL AL HAJTOR

蜂葬は、死体を蜂葬台^{ほうそうだい}に運び蜂蜜酒をささげます。一晩中ハスターをたたえる呪文を唱え、ビヤーカーが魂をハスターのもとへ運ぶとされています。アルデバランまでかかる日数（アルデバランまで 67 光年）から、死者の魂は 49 日間宇宙空間を旅するとされています。死者の魂は 12 年で宇宙の真理たるハスターとひとつとなります。

隠れ家

ウラム市にある夏音の隠れ家です。2階建ての一軒家に見えますが、3階建てです。
あなたは幹部なので、隠し扉の向こう側を知っています。

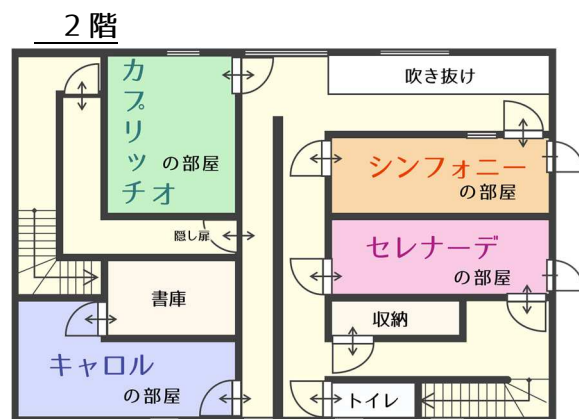


1階にはララバイの部屋のほか、会議に使われるリビング・ダイニングがあります。

吹き抜けは道具なしに登れそうにはありません。

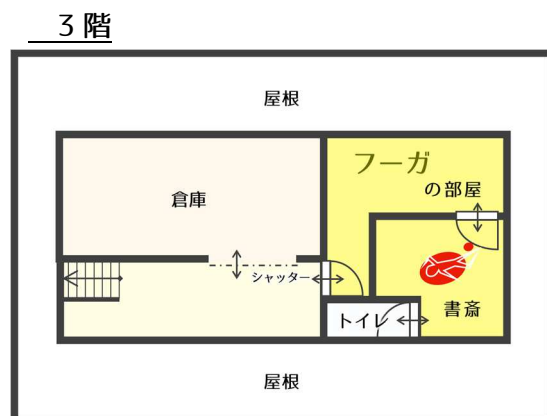
小さい方の収納は、出入りに不便なので空っぽです。

図には書かれていませんが、庭側に車庫もあります。



2階にはシンフォニー・セレナーデ・キャロル・カプリッチオの部屋があります。

隠し扉は、シンフォニー・ララバイ・キャロル・カプリッチオの幹部しか知りません。しかし殺人事件の調査のために、セレナーデも立ち入りがゆるぎました。



フーガの死体は3階のフーガの『書斎』で発見されました。(赤地に白の人型)

PCの部屋にはすべて鍵がかかります。外から開けるには、部屋の鍵を持っている必要があります。

A4 一枚でわかる時系列

1??/??/??	<u>キャロル</u> が生まれる。
190/11/30	黄色の印の親子団が襲われる。 <u>キャロル</u> 以外死亡。
196/04	<u>キャロル</u> が <u>ロンド</u> の研究室に入る。
197/04	夏音設立。すべての超高層ビルが完成。
07	<u>ララバイ</u> 加入。
199/07	経済不安。
200/03	<u>アリア</u> が夏音を脱退。
201/05	脱退したメンバーとの接触が禁止される。
12/01	夏音が「メディアで洗脳されてしまう」と主張する。

202 年 11 月

29 日	17:00	隠れ家に到着。
	22:15	<u>シンフォニー</u> が外出。
	22:30	アルデバランを見るために <u>キャロル</u> が外出。
30 日	00:00	死体の死亡推定時刻(切り札の情報)
	01:30	隠れ家に戻る。 <u>シンフォニー</u> と <u>カプリッチオ</u> がいた。
	01:45	<u>カプリッチオ</u> と、 <u>カプリッチオ</u> の部屋の前で会話。
	01:55	<u>フーガ</u> が具合悪そうに 1 階階段の方から隠し扉へ。
	01:57	<u>シンフォニー</u> が <u>シンフォニー</u> の部屋から 1 階へ。
	02:15	<u>カプリッチオ</u> との会話を終え、部屋に戻った。
	04:00	3 階で <u>死体</u> 発見。金庫の鍵は見つからず代わりにフーガのスマートフォンを持ち帰る。
	06:45	死体発見。ゲーム開始。